

広なす 報からすやま

No.141

Public Relations Magazine of Nasukarasuyama City

特集 考えよう！私たちの公共施設.....	2
けんこう・消費者コラム.....	7
那須烏山市新武道館が完成しました.....	8
そばまつり・鯉のぼりまつり.....	10
まちづくり団体等平成28年度活動報告.....	12
ジオパーク・山あげ関連.....	14
消防と警察の合同水難救助訓練.....	16
農業体験等.....	18
まちのわだい.....	20
インフォメーション.....	22
シリーズ 烏山高校ってこんなところ!.....	24

2017

6

June

ど・る・ま・み・れ (5月8日 烏山小田植え体験)

— 特集 —

考えよう！ 私たちの 公共施設



本市には、市庁舎、公民館、体育館など112施設164棟、総延床面積約8万9871平方メートルの「建築物系公共施設」と、道路、橋りょう、上水道、下水道の「インフラ系公共施設」があります。今後、施設の老朽化に伴う建物改修や更新のための費用の増大が大きな問題となっています。

それらの課題を解消するために、本市では今年3月に、中長期的な視点で公共施設の適切な規模やあり方を考え、最適な配置実現のため、「那須烏山市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

今月号では、同計画に基づき、本市が保有する公共施設等の現状や課題、適正な管理などに向けた今後の取り組みについて紹介します。

那須烏山市公共施設等 総合管理計画がスタート

わが国では、戦後の高度経済成長と急激な人口増加を背景として、公共施設の建設などが全国各地で増加を続けてきました。

しかし、昨今、厳しい財政状況が続く中、人口減少や少子高齢化による課題に加え、高度経済成長期に整備されてきた公共施設等の耐震性や設備の老朽化対策が全国の地方公共団体において共通の大きな課題となっています。

このため、国では、国土交通省が平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、老朽化対策への取り組みを始めるとともに、総務省が地方公共団体に対して、平成26年4月に「公共施設等の総合かつ計画的な管理の推進について」を通知し、総合的・中長期的な観点から公共施設等の管理を推進するための計画（公共施設等総合管理計画）の策定を要請しました。

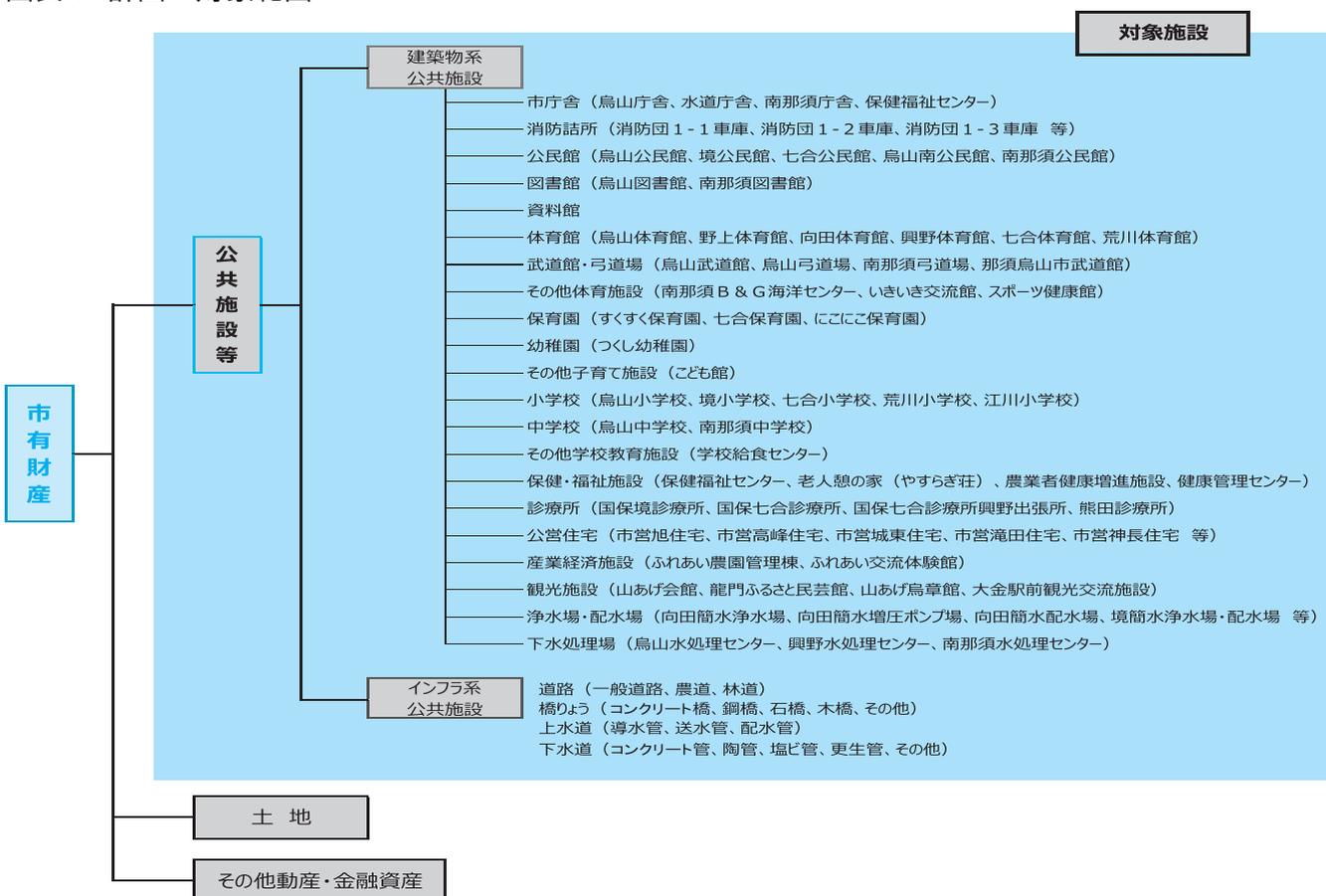
本市でも、市庁舎、学校、生涯学習施設など多くの公共施設が整備されてきました。その多くは、昭和40年～50年代にかけて整備されたもので、未耐震、老朽などが著しい現状です。

こうした背景を踏まえ、本市では、公共施設の適切な規模とあり方を検討し、公共サービスの低下を招くことなく、次世代に過大な負担を残さない費用対効果の高い行財政運営を推進していくために、「那須烏山市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

この計画は、平成29～68年度までの40年間とし、社会情勢などの変化を踏まえながら10年毎に見直しを図ります。

また、対象となる施設は、建築物系公共施設と呼ばれる「建物」、インフラ系公共施設と呼ばれる「道路」「橋りょう」「上水道」「下水道」です。ただし、土地および動産、金融資産は対象外となります。（図表1）

図表1：計画の対象範囲



公共施設等を取り巻く「現状」と「課題」

■公共施設等の老朽化

建築物の^{*1}更新の目安は築60年、^{*2}大規模修繕の目安は築30年とされています。本市では、日本経済の安定成長期の昭和50年代前半をピークに公共施設が集中的に整備されてきたため、現在、更新時期の築60年を経過した公共施設はごくわずかですが、大規模修繕時期の築30年を経過した建築物系公共施設は57.2%となり、市の施設全体の半数以上を占めています。さらに、10年後には現在の約2割増の80.2%にも上るなど老朽化が顕著に表れ、大規模修繕が必要となります。(図表2)

インフラ系公共施設について、道路及び橋りょうは、今後の維持管理費用の増大が懸念され、特に、橋りょうについては多額の修繕費用が必要となります。水道は、10年後には耐用年数を超えた更新が必要な管路が増加。下水道は、20年後には更新が必要になる管渠が増える見込みです。(図表3)

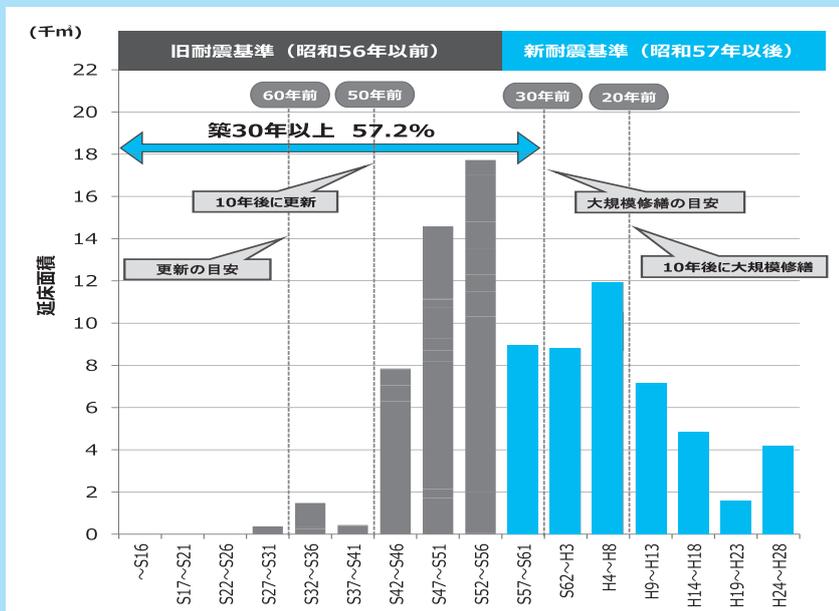
■人口減少・少子高齢化で

1人あたりの維持管理費は増加

将来人口の推計を見ると、平成27年に2万7047人だった人口は、平成72年の時点で1万5534人となり、約57%まで減少する見込みです。

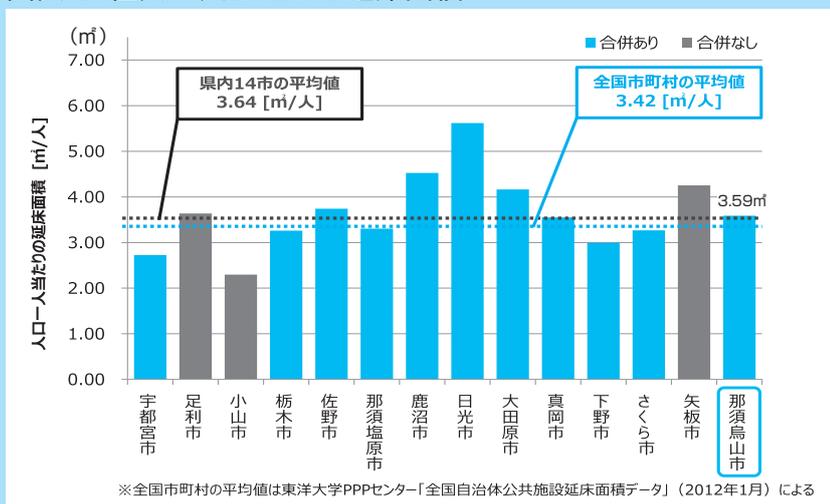
このことを踏まえ、現状の公共施設を今後も維持した場合、人口1人あたりの公共施設延床面積は増加することになります。

図表2：建築物系公共施設の建築年度別延床面積



- *1.更新:寿命を迎えた建築物を新たに建て替えること。
- *2.大規模修繕:劣化した建築物全体の性能及び機能を現状あるいは実用上支障のない状態まで回復させること。

図表4：住民一人あたりの延床面積



※全国市町村の平均値は東洋大学PPPセンター「全国自治体公共施設延床面積データ」(2012年1月)による

図表3：インフラ系公共施設の現状

- ◆道路(市道・農道・林道)
 - ・総延長:513,209m
 - ・面積:2,672,652㎡
- ◆橋りょう(コンクリート橋・鋼橋・木橋)
 - ・総延長:18,170m
- ◆水道(上水:導水管・送水管・配水管)
 - ・総実延長:342,187m
- ◆下水道(公共・特環・農集:コンクリート管・塩ビ管)
 - ・38,095m

平成27年度末時点



人口が減少し、1人あたり延床面積は増え、サービスは向上する一方で、1人当たりの負担する維持管理費は増えていくばかり…。

**集約化・複合化・廃止の
必要性UP!!**



この場合、市民にとっては、床面積が増加することでサービスは向上するものの、1人あたりが負担する公共施設の維持管理費用は増えていくこととなります。

現時点ですでに、本市の建築物系公共施設の人口1人あたりの延べ床面積は、全国市町村平均と比べるとやや高い水準にあります。(図表4)人口減少が加速する中、建築物系公共施設を継続して利用する場合、平成67年度の1人あたりの延床面積は5・48平方メートルまで増加する推計となります。

■厳しい財政状況の中 限りある予算で公共サービスを維持するために

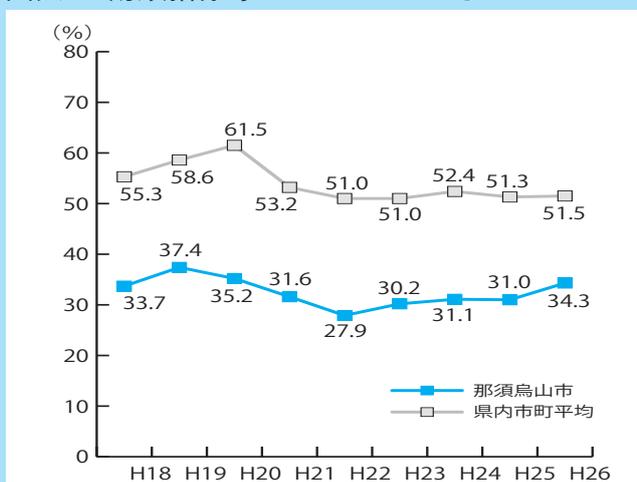
本市は、地方自治体が自主的に調達できる財源「自主財源」の割合が低く、ここ数年県内市町の中で下位となっています。一方、人口1人あたりの歳出規模は県内市町の中でも上位となり、このまま現存する公共施設等を維持するためには、今後40年間で年間16・9億円が不足します。これにより、将来的にかかる更新費用は、充て可能な財源見込み額の約2・5倍もの費用が必要となり、公共施設の統廃合に向けた取り組みが急務となっています。(図表5・6)

公共施設等の適正な管理に向けた4つの重要な視点

本市の現状や課題などを踏まえ、市庁舎をはじめ、老朽化や耐震性などの問題を抱える多くの公共施設等の適正な維持管理や、計画的かつ効率的な統合・再整備

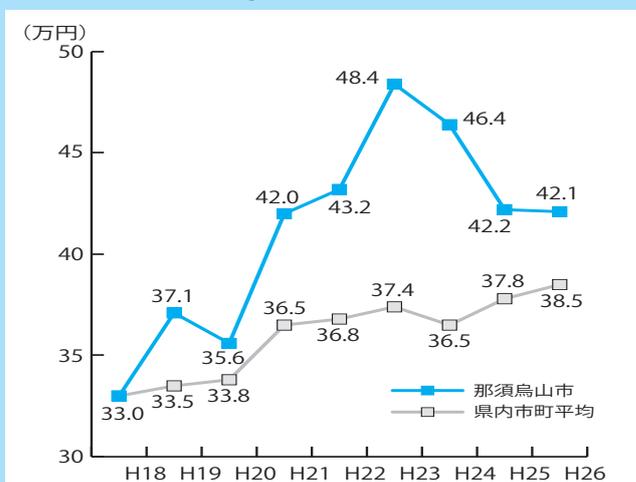
図表5：財政指標等

①自主財源比率



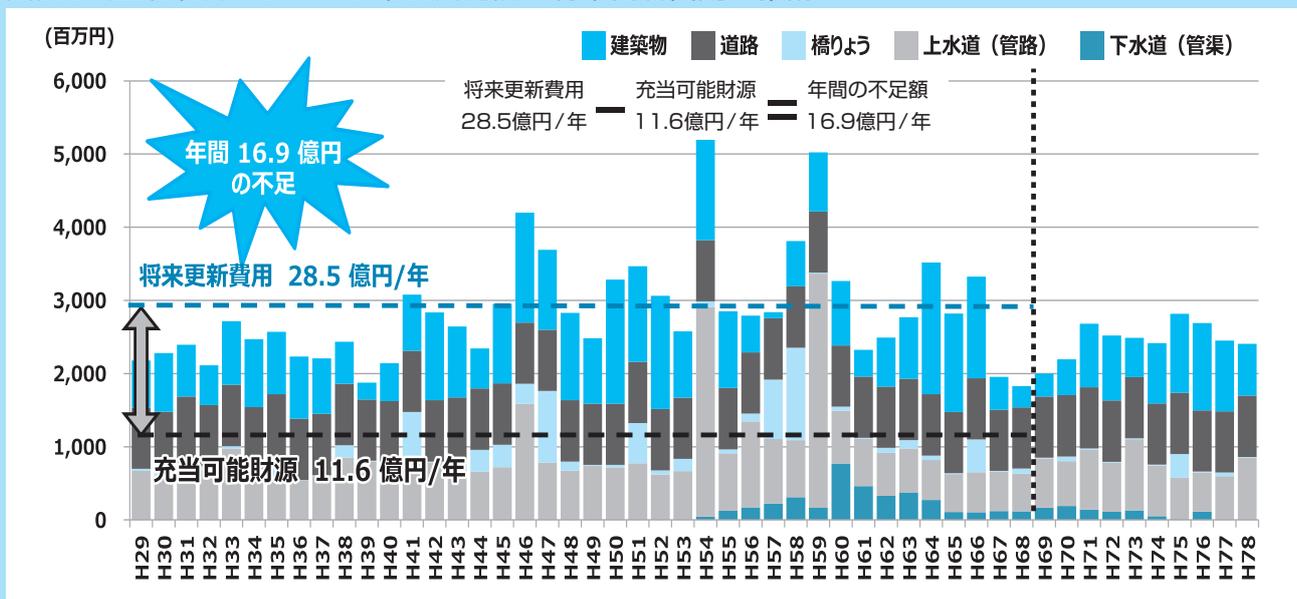
*自主財源比率：市町村が自主的に収入することができる財源で、地方税、使用料、手数料、諸収入などを指し、歳入に占める割合のこと。

②人口1人あたりの歳出決算規模



*人口1人あたりの歳出決算規模：各年度の普通会計決算額を住民基本台帳人口で除した額のこと。

図表6：建築系及びインフラ系公共施設の将来更新費用の推計



*将来更新費用：平成29～68年度までの40年間に要する更新費用は約1,139億円。平均すると年間28.5億円かかる見込み。

*充て可能な財源：中長期財政計画による暫定値や過去5年の平均額から算出した将来充て可能な財源は年間約11.6億円。

図表7:4つの重要な視点

視点1

まちづくりの拠点となる本庁舎整備について優先検討します。

→市民サービス、行財政の効率化、防災拠点など幅広い視点をもって本庁舎整備の優先検討、検討結果を踏まえた建築物系公共施設の統合・再編の検討

視点2

次世代に継承する公共施設等の供給量の適正化を図ります。

→既存公共施設の有効活用の検討、コスト縮減を念頭に置いた効率的・効果的な整備の検討、住民1人あたりの建築物系公共施設の床延面積を3.0平方メートル以内に設定（中長期的な施設総量）

視点3

コンパクトシティを念頭に置いた都市再生を目指します。

→公共施設等の統合・再編、集約により、市街地における都市機能が集積したコンパクトシティの実現、公共交通や幹線道路の充実による効果的なネットワークの形成

視点4

公共サービスの質を確保しつつ、公共施設等を維持管理・再整備していくために、財政負担の軽減と平準化に努めます。

→廃止となった公共施設の売却や賃貸などによる収入の確保、改修・更新費用の縮減及び平準化、維持管理に関する積極的な民間活力の導入

に努めていく必要があります。本市では、重要な視点を左記のとおりにまとめました。(図表7)

**1年あたり4.4億円が不足：
まずは延床面積10%以上削減**

現在の公共施設等をそのまま維持した場合、人口減少により1人あたり公共施設の延床面積が増えるため、1人あたりの負担額が増加します。そのた

め、現在の公共施設等におけるサービス水準を維持しようとした場合、建築物系公共施設の延床面積の削減は避けて通ることができません。

建築物系公共施設の将来の更新等費用は、平成29～68年度までの40年間で1年あたり約8.9億円がかかると見込まれます。中長期財政計画による建築物系公共施設にかかる充当可能な財源見込み額は1年あたり約4.5億円であり、不足分

の約4.4億円を解消するためには、建築物系公共施設の延床面積を約49.4%削減する必要があります。しかし、現有施設の延床面積を半分近く削減することは現実的ではありません。

したがって、可能な限りでの延床面積の削減に向け、目標値を「平成37年度までに延床面積を10%以上削減」としました。

市では、今後、建築物系公共施設の供給量の適正化を図るため、耐震基準を満たしていない施設、築後30年以上となる施設、点検・診断や劣化度調査の結果、危険性が認められた施設、利用状況が少ない施設について市民の意向に配慮するとともに、適正な評価を行いながら統廃合や廃止を視野に入れた検討を行います。また、インフラ系公共施設については、都市生活の基盤となる施設であることから、施設性能を可能な限り維持し、施設の長寿命化を基本に、計画的な維持管理に努めます。

考えよう！ 私たちの公共施設

急激な人口減少、少子高齢社会の中で、ますます社会保障費などの支出が増える

ことが予想されています。限られた財源をどう生かして持続可能な行政サービスを市民の皆さんに提供していくか重要なテーマです。

真に必要な公共施設について、集約化、複合化、廃止なども含めて、それぞれの地域に何を残していくのか、どのように運営していくのかなどの将来イメージを共有していくために、皆で議論をしていくことが大切です。

「今」をどうするか知恵や工夫を持って考えていくことが将来負担の軽減につながり、複雑化・多様化するニーズに的確に対応できる行財政運営につながるものと考えます。

今後は、公共施設等総合管理計画に基づき、各施設の個別計画を策定し、施設カテゴリーの整備など公共施設の適正管理マネジメントシステムを構築する予定です。

国では、公共施設の集約化や、複合化、長寿命化、他施設への転用、除去事業等について、「公共施設等適正管理推進事業債」という財政措置を設けており、本市でもそれらの有利な財政措置を計画的に活用しながら、公共施設の適正な配置等に努めていきます。



● 公共施設等総合管理計画についての詳細は、総合政策課
0207-83-1112までお問い合わせください。
※市ホームページには、計画の本編と概要版を掲載しています。

けんこうコラム③ なんぼでも★Let's 健活

皆さんは食事の時間、一口で何回噛んでいますか？
 オススメの回数は、「30回」で噛んで飲み込める量が理想の量です！30回噛むだけで、肥満・食べ過ぎや虫歯、がんも防ぐことができます。

今日は、「よくかむ効果」をご紹介します。

合言葉は…「ひ・み・こ・の・は・が・い・ぜ😊」です。

合言葉はそれぞれの効果の頭文字をとっています。

- ①: 肥満・食べ過ぎを防ぐ ②: 味覚の発達
- ③: 言葉の発音がはっきり ④: 脳の発達
- ⑤: 歯の病気を防ぐ ⑥: がんを防ぐ
- ⑦: 胃腸の働きをよくする ⑧: 全身の体力向上と全力投球

毎年6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日」、6月4日は「むし歯予防の日」、6月4日～10日「歯と口の健康週間」です。

市では、「なすからすやま歯科保健行動計画」を策定し、市民の皆さん一人ひとりが歯と口の中の健康づくりに関心を持って、実践することで、皆さんがいきいきと暮らせるまちづくりを目指しています。

おいしく食事を食べるために、よい歯を保ちましょう。日頃の丁寧なお口のケアはもちろんのこと、まずは「よくかむ」ことに気を付けてみてはいかがでしょうか。

【かみごたえ度表～野菜編～】

だいこん (ゆで) かぼちゃ (ゆで)  1	とまと (生) なす (蒸・ゆで)  2	グリーンピース (ゆで)  3	ごぼう (ゆで)  4	ほうれん草 (ゆで) もやし (ゆで)  5	レタス (生) きゅうり (生)  6	だいこん (生)  7	キャベツ (生)  8	セロリ (生) れんこん (生)  9	にんじん (生)  10
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

かみごたえ度 低→高

～母子保健グループ 管理栄養士より～

消費者コラム③

消費者ほっと♥らいふナビ

皆さんは「クーリング・オフ」をご存知でしょうか？契約した後、頭を冷やして(Cooling Off)冷静に考え直す時間を消費者に与え、一定の期間内であれば契約を解除することができる特別な制度のことです。一度は耳にしたことがあるかと思いますが、どんな時に「クーリング・オフ」ができるのかを再度確認して、いざという時に備えましょう。

【クーリング・オフができる主な取引と期間】

取引内容	期間
訪問販売、電話勧誘販売、特定継続的役務提供※、訪問買取	8日間
マルチ商法、内職・モニター商法	20日間

※特定継続的役務提供…エステ・語学教室・家庭教師・学習塾・パソコン教室・結婚相手紹介サービスの継続的契約等

【クーリング・オフの仕方】

- ・必ずハガキなどの書面で通知する。
- ・書面を出した時点から有効になるので、配達記録や簡易書留など「出した日付」の記録が残るようにする。
- ・ハガキの両面コピーをとって保管しておく。

【ハガキの書き方】

〒□□□-□□□□
 ○○市○○町○○番地
 ○○株式会社 御中
 (自分の住所・氏名)

契約年月日 平成○○年○○月○○日
 商品名 ○○○○
 契約金額 ○○○○円
 販売会社 ○○株式会社
 担当○○氏
 右の契約は解除します。
 平成○○年○○月○○日

※右記取引以外でも「クーリング・オフ」同様の制度が設けられていて、契約を解除できる場合があります。詳しくは、市消費生活センターにお問い合わせいただくか、下記ホームページをご参照ください。

【国民生活センター「クーリング・オフって何?」】
http://www.kokusen.go.jp/mimamori/mj_volunteer/mj-chishiki24.html

那須烏山市消費生活センター(烏山庁舎1階、商工観光課内)
【専用電話番号】0287-83-1014
【受付時間】平日9:00～12:00、13:00～16:30
 ※土・日曜日及び祝日は「消費者ホットライン☎188(局番なし)」へご相談ください。

那須烏山市 新武道館

が完成しました

市が昨年から大金に建設していた南那須、烏山の両武道館を統合した新しい「那須烏山市武道館」の竣工式が、5月13日(土)、同武道館で行われ、大谷龍雄市長や三森文徳県議、渡辺健寿市議会議長、地域住民など関係者約300人が出席しました。

式典では、大谷市長が、「この武道館を存分に利用し、2020年のオリンピックや22年の栃木国体の代表選手として、本市から輩出できるように稽古に励んでほしい」とあいさつ。その後、来賓の代表者によるテープカットが行

われ、武道館の完成を祝いました。

続いて、市内スポーツ少年団に所属する小・中学生などによる剣道や空手、柔道の演武が披露され、本番さながらの試合形式の演武や会場中に響き渡る威勢の良い掛け声で観客を圧倒しました。

新武道館の建設にあたっては、震災の影響により、南那須武道館が使用休止状態だったことや、烏山武道館についても老朽化・未耐震化の問題があり、公式大会などの開催も困難な状況にあったことから建設を計画。2つの武道館を統合した新武道館の整備を行う



ことで、スポーツ少年団などの市内武道関係者が日々の稽古や市内での大会を快適に開催してもらうことのほか、市民が集い地域のにぎわいを創出することを目的としています。

建物は、市役所南那須庁舎南側の敷地約4820平方メートルに建設され、総事業費は約4億3千万円。県産材をふんだんに用いた木造2階建てで、剣道・空手道場、柔道場、観客席などを設け、外観は八溝山系の山並みをイメージしています。

新武道館は、6月から一般利用を開始。武道場としての利用のほか、今後は、運動靴を履かないで行うことができるスポーツや災害時の避難所などとしても活用していくこととしています。

那須烏山市武道館施設概要

- 建設場所 大金240番地
- 敷地面積 4820.32㎡
- 建築面積 1018.97㎡
- 延べ面積 992.11㎡
(1階:871.89㎡、2階:120.22㎡)
- 構造概要 木造2階建
- 内 容 剣道・空手道場、柔道場、トイレ
(男女・多目的)、更衣室(男女)、
倉庫(3か所)、観覧席・会議室
- 工 事 費 322,685千円
(建築、電気設備、機械設備工事含む)

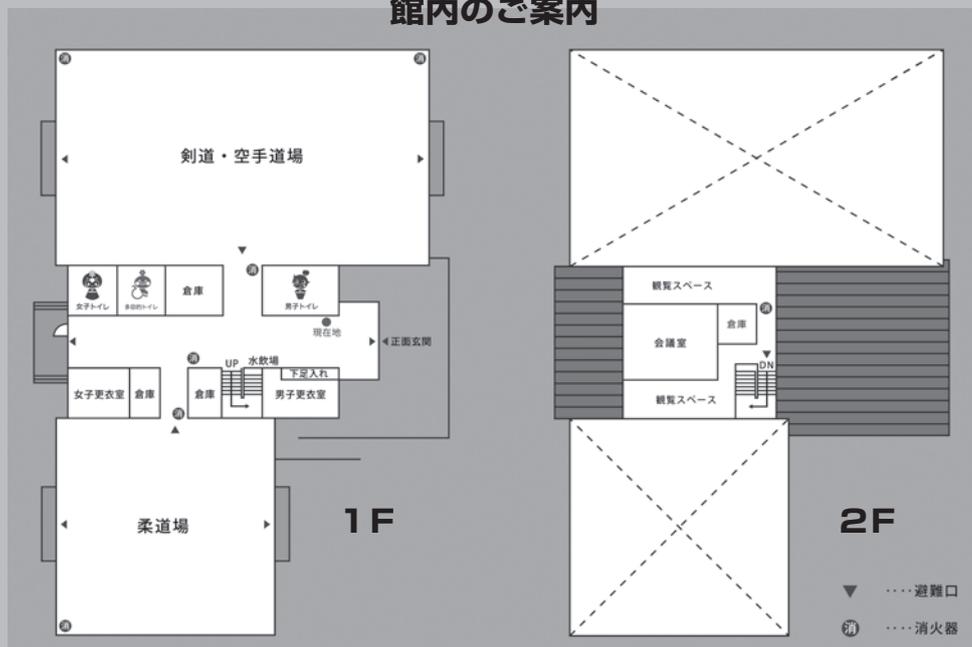
※森林整備加速化・林業再生基金事業費補助、森を育む人づくり事業市町村交付金により、48,371千円が補助されています。





①竣工を祝いテープカットをする代表者たち／竣工式では様々な演武が披露されました…②宏倫剣道・烏山剣道スポーツ少年団による「木刀による武道基本技稽古法」③気迫が伝わる日本剣道形④⑤南那須柔道スポーツ少年団による稽古⑥南那須空手道・白聖会空手道スポーツ少年団、新極真会による演武⑦本番さながらの組手演武⑧極真空手による組手スパーリング。

館内のご案内



3万1千人が八溝のそばを堪能

第7回 八溝 そば街道

そばまつり

第7回八溝そば街道そばまつりが、5月20日(土)、21日(日)の2日間にかけて大桶運動公園を会場に開かれ、県内外から訪れた3万1千人が八溝のそばを堪能しました。

このそばまつりは、八溝のそばを全国に発信し、地域を活性化させようと八溝そば街道推進協議会そばまつり実行委員会(棚橋誠一郎委員長)が開いているもので、毎年、全国各地からそば愛好者が訪れる市の一大イベントの一つです。

会場には、八溝そば街道推進協議会に加盟する10店舗のほか、日光例幣使そば街道の日光手打ちそばの会や鹿沼そば振興会が出店し、人気を集めました。また、アユの塩焼きなど、ご当地グルメ20店もずらりと並び、来場者は様々な店舗のそばを食べ比べたり、ご当地グルメを食べ歩いたりするなど楽しんでました。

さらに、そば打ち道具や直売所による新鮮野菜の販売、バンド演奏やダンスなどのステージイベントと



いった様々な催しも行われ、会場はにぎわいを見せていました。

毎年訪れているという高根沢町の小川昭則さんは、「今年で5年目。八溝のそばまつりは、この時期の楽しみにしている。一度にいろんなお店のそばが食べられるのが魅力」と話していました。

八溝そば街道推進協議会って？

那須烏山市、那珂川町、茂木町、市貝町の1市3町で構成する協議会。寒暖の差が大きい中山間地域で栽培された香りの高い「八溝そば」を広めるために活動しています。また、そばの栽培農家や、そば店主、製粉業者らと勉強会、試食会なども開き、日々研究を重ねています。





⑥



⑤



⑦

①そばを提供するスタッフ ②そば生産者組合では「そば粉」を販売
③そばを味わう来場者たち ④好評の那須烏山市産のそば粉を使った「そばだんご」
⑤ LOOP CHILD によるステージ ⑥ダンスを披露する子どもたち ⑦烏山線鉄道唱歌を披露する歌えバンパンの皆さん。

第10回鯉のぼりまつり

まちなかを3000匹の鯉のぼり泳ぐ

県内5つの大学と烏山高校などで構成する那須烏山市まちづくり研究会(福島朗委員長)による「第10回鯉のぼりまつり」が、4月29日(土)から5月21日(日)まで開かれました。

今年、初日の24日に、まちなか鯉のぼり事業の一環として市民参加型のイベントを企画。地域住民や烏山高校の生徒から参加者を集め、清水川せせらぎ公園で鯉のぼりの設置作業を行いました。当日は子どもから大人まで約30人が参加し、約200匹の鯉のぼりを大空へ泳がせました。そのほか、期

間中には、同公園と龍門の滝に合わせて約300匹のこいのぼりが設置され、地域住民や観光客を楽しませました。

また、八溝そば街道そばまつりが開催された2日間、同まつりの鯉のぼりイベントが同時開催され、国の選択無形文化財に指定されている「烏山和紙」を使った「和紙鯉のぼり製作体験」と、色付き和紙などを使った「和紙うちわ作り」が行われました。来場者は、同研究会に所属する学生や烏山高校の生徒に指導を受けながら、オリジナル

の作品を完成させました。

さらに、そばまつりのステージでは、同研究会が研究した「現代版・烏山線鉄道唱歌」が歌えバンパンによって披露され、大勢の来場者が耳を傾けました。なお、イベント時には、同研究会の所属する学生などが会場の清掃美化活動などに努めました。



上から、清水川せせらぎ公園に鯉のぼりを設置する子どもたち/鯉のぼりイベントで和紙鯉のぼりを制作/会場の美化活動に努める烏山高校の生徒。



和紙鯉のぼり完成!

▼烏山和紙を使用したオリジナル記念ファイル。

婚姻届提出者に 烏山和紙の寿ファイル贈呈



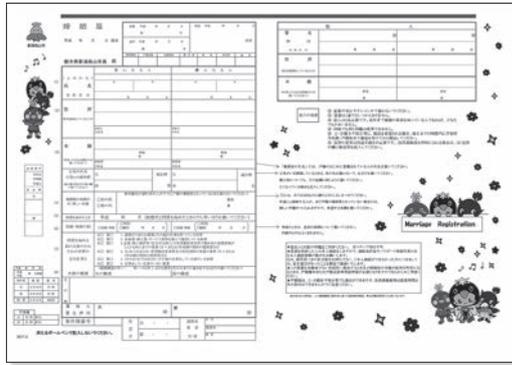
イメキャラ婚姻届も大好評

市では、5月1日(月)から、本市に婚姻届を提出した夫婦に、特産の烏山和紙を使用したオリジナル記念ファイルを贈呈しています。

本市では、平成27年度から合併10周年を記念したファイルを手渡していましたが、今回のファイルは、結婚する2人を祝福するとともに、特産の素材を用いることで市のPRを図り、愛着を深めてもらうと制作をしました。

ファイルの色は、白、紫、えんじ、ピンク、黄緑の5色。烏山庁舎、南那須庁舎の市民課で、提出された婚姻届をコピーしてファイルに挟んで受け取ることができます。

また、市のイメージキャラクター「ここなす姫」、「からすまる」、「やまどん」をあしらったオリジナル婚姻届も制作しました。この婚姻届は、市ホームページからダウンロードして使用できるほか、市民課窓口でも配付しています。



▲市のイメージキャラクターをあしらった婚姻届。

なすから英語塾

外国語指導員を1人増員
少人数制の受講が可能に

市民向け英会話教室「なすから英語塾」の平成29年度前期コースが5月からスタートしました。

この英語塾は、「市英語ビレッジ構想」の一環で、烏山の山あげ行事がユネスコ無形文化遺産に登録され、外国人観光客の増加が予想さ

れることから、世界中で共用語として使われる英語に多くの市民に関心を持ってもらい、身に付けてもらうと、平成27年度から始まった事業です。

今期の生徒数は、68人。クラスは、初級、中級、上級のほか、昨年度からは、観光ガイドクラスも増設され、より実践的な会話を学んでいます。また、毎週土曜日をフリークラスとして受講生に向けて開放し、外国語指導員と自由に英会話



ステューブンさん(左)、ジョシュアさん(右)。

を楽しむクラスも設置しました。

さらに、今年からは、外国語指導員を1人増の2人体制にし、少人数制での受講が可能になりました。昨年の後期コースから指導しているステューブン・ガンさんは、「コミュニケーションをとり、受講者の英語を上達させたい」と話していました。そして、今期から指導するジョシュア・ウォジックさんは、「リラックスした雰囲気の中で楽しく英語を指導したい」と意気込んでいました。



まちづくりチャレンジプロジェクト・まちづくり団体支援事業

平成28年度活動報告

まちづくりチャレンジプロジェクト

市では、新たな「公共の担い手」の育成による協働のまちづくりの実現を目指してまちづくりチャレンジプロジェクトを実施しました。

平成28年度に採択となった6団体の事業を紹介します。

なお、この事業は「民間活力を最大限に活用した行政運営」への転換に向けて、今年度も継続して実施しています。

■那須烏山市木の駅プロジェクト実行委員会(代表:大森正)

那須烏山市木の駅プロジェクト
森林を佳良な状態に整備し、林地残材を地域の発展と地球環境のために有効活用する。

【取組内容】森林整備、残材の丸太をバイオマス発電の燃料として販売。



クロスアクション。



木の駅プロジェクト実行委員会。



株式会社ユーキャン。



キャンナス烏山。



翼の生えた虎製作委員会。



ふるさと応援隊。

■キャンナス烏山(代表:横山孝子)

全国訪問ボランティアアナサの会キャンナス「キャンナス烏山」

看護や介護・子育て等で、疲れている家族の休息の実現や、公的制度の活用につなげていない人を発掘して制度を利用できるようにする。

【取組内容】通院同行、見守り、留守番、家事援助などの生活支援。

■那須烏山市ふるさと応援隊(代表:岡崎一徳)

那須烏山市ふるさと応援隊事業

農産物・加工品の販売による小規模農家所得の向上及び観光パンフレットの配布等により、観光交流人口の増加を図る。

【取組内容】東京・埼玉等で市内農産物や加工品等の販売

■クロスアクション(代表:高橋誠一)

観光交流創造事業

地域間交流や市内団体による企画開催などとおして、地域内に住む人の郷土愛と観光客の地域への愛着を育むとともに社会参画意識を醸成し、市民主体の持続可能なまちづくりの推進に寄与する。

【取組内容】都市農村交流ツアー、地域内交流施設「ぶらっと」、マルシェの開催。

【株式会社ユーキャン那須烏山支店(代表:武井金吾)

アクティブシニアの活躍で街を元気に！

地域内のアクティブシニアが積極的に社会参加しやすい仕組みを作ること、日常生活のモチベーションアップ、コミュニケーション機会の増加、地域全体の健康増進に貢献する。

【取組内容】情報発信サイト構築、さすな作りサロンの開催。

■翼の生えた虎プロジェクト

翼が綺麗な場所であり景色も素晴らしい那須烏山市を舞台とした長編映画を撮影・上映し、映画のロケ地を訪れる人々をとおして地域活性化に貢献する。

【取組内容】那須烏山市を舞台とした長編映画の撮影・上映。

【取組内容】那須烏山市を舞台とした長編映画の撮影・上映。



野球連盟。



烏山語りの会。

まちづくり団体支援事業

市では、5人以上で構成するボランティア団体やNPO法人などが地域資源を活用し、住みよい環境・活力ある地域社会づくりに新たに取り組む場合「まちづくり団体支援事業」として、活動を支援しています。

これは、市民の連帯強化、地域振興を目的とする地域振興基金の運用益を活用し、行政と市民の協働によるまちづくりを推進するための支援制度です。

平成28年度に採択となった2団体の取り組みを紹介します。

■那須烏山市野球連盟(代表:大橋光一)

那須烏山市山あげカップ軟式野球大会事業

野球をとおして、近隣市町との交流・連携を図り、野球の普及と競技力の向上、選手の育成を実施。

【取組内容】野球大会開催(学童・一般)、市内に住む小学生を対象に野球教室の開催、登録チームや審判員を対象としたルール勉強会。

■烏山語りの会(代表:大喜正昭)

ふる里の民話を生かしてまちづくり事業

那須烏山市の民話を世代間交流・地域間交流を取り入れ各地への発信にも力を入れ観光面での集客を図った。

【取組内容】民話本「那須烏山の民話」を発売、発表会開催、ふるさと民芸館にて毎月民話語り、各種施設いきいきサロン・学校等へのボランティア活動、各種イベントへの協力。

那須烏山ジオパーク構想 認定は見送りへ



プレゼンをする中学生や
協議会メンバー。

5月21日(日)、千葉市幕張メッセ国際会議場で「第30回日本ジオパーク委員会」が開かれ、日本ジオパークネットワーク(JGN)新規認定に向けた申請プレゼンテーションが行われました。

ジオパークとは、地球・大地(ジオ)

と公園(パーク)の造語。本市では、約1200万年前の地層から「オオガネクジラ」の化石が発見されるなど特徴的な地形持っていたことから、昨年JGNの準会員となり、正会員入りを目指していました。

プレゼンには、準会員の4団体が出席。本市でも那須烏山ジオパークの認定に向けて、那須烏山ジオパーク構想推進協議会大谷範雄会長をはじめ協議会のメンバー、ジオパーク構想のきっかけとなった自然保護活動を進めている南那須中学校の生徒や関係者など30人が参加し、プレゼンに臨みました。12分間の発表では、優れた地形、豊富な文化的資産のほか、南那須中学校の活動と教育活動を紹介しました。

審査員からは、「中学生の活動は素晴らしい」と高評価を受けた一方で、「ジオパークは持続可能性が重要であり、続けていけるのか」、「実績が足りないのでは」など厳しい質問もあり、審査の結果、那須烏山地域の現地審査は行わないことが決定されました。

今年度の登録認定は見送りとりましたが、大谷会長は「これをスタートとして、今後も取り組んでいく」と話していました。

市文化協会「烏山城築城600年」講演会 歴史や発掘調査の成果を紹介

市文化協会(大森茂宏会長)により烏山城築城600年をテーマとした講演会が5月11日(木)、烏山公民館で開かれ、地域住民など約50人が訪れました。

講演会では、市文化振興課職員から「築城600年を迎える烏山城」発掘調査から見えてきた烏山城のすがた」と題し、烏山城の立

地環境や周辺城館との関連性、歴史、城主紹介などのほか、平成21〜25年にかけて行われた発掘調査の成果報告、調査で判明した特徴や将来の事業展望などが解説されました。

今後は、平成30年に迎える烏山城築城600年に向けて様々なPRを行っていく予定です。



烏山城の歴史などが解説された講演会。

那須烏山ジオパーク構想 特設サイトをオープン

ジオパーク認定に向けて、広く大勢の人に「那須烏山ジオパーク構想」をPRするため、4月に特設サイトをオープンしました。

サイトには、那須烏山ジオパーク構想の特徴や主なジオサイトの見どころなどの情報が満載。市ホームページから下記のバナーをクリックしてご覧ください。



烏山あげ保存会 ユネスコ認定書を市長に報告

5月4日(木)、富山県で開かれた全国山・鉾・屋台保存連合総会で、烏山の山あげ行事を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録の認定書伝達式が行われ、構成する33団体に認定書のレプリカと構成団体であることを示す文化庁の証書が授与されました。

これを受け、烏山山あげ保存会では、10日(水)、同保存会の島崎利雄会長と川勾勇二副会長が大谷範雄市長を訪れ、認定書が伝達されたことを報告しました。島崎会長は、「とても喜ばしい一



市長のもとに報告に訪れた島崎会長(中央)と川勾副会長(右)。

山あげ祭の準備を体験

初の山描きツアー



市地域雇用創造協議会では、5月20日(土)、山あげ祭で使われる「はりか山」に絵を描く「山描き体験ツアー」を開きました。

これまで、祭り当日の屋台引きなどの体験ツアーはありましたが、山に絵を描いてもらうのは初めての試みです。同協議会事業推進リーダーで今年の当番町である仲町の佐藤大通さんが山に絵を描く責任者ということから体験ツアーを企画。人手不足の中、様々な形で外部からの支援体制を作ることも視野に入れての開催となりました。

当日は、市内外から10人がツアーに参加し、山あげ会館で山あ

げの基礎知識を学んだほか、山あげ烏草館に移動し、山の中でも最も前景となる「波」の絵を描く作業を約2時間にわたり体験しました。体験では、白、青、群青のアクリル絵具を使い、様々な波の絵を描きました。

参加者の中には、はりか山に貼られる烏山和紙を制作する福田製紙所の福田博子さん(中央2丁目)の姿もあり、「絵を描くことなんて普段できることではないので、山あげを知るためにも良い機会になった。祭りで自分が描いたパーツがどう見えるのを楽しみ」と笑顔を見せていました。

仲町・佐藤大通さん、陽亮さん 親子2代で山あげの山描き

今年の山あげ祭の当番町である仲町では、順調に準備が進められ、4月下旬頃からは、和紙を貼った「はりか山」に絵を描く作業が行われています。

仲町では、約30年前の当番町の時から、仲町(中央2丁目)の佐藤大通さんが絵を担当。そして、12年前の当番からは、長男の陽亮さんも手伝い親子2代で絵を仕上げています。6月中旬頃まで続くこの絵描きの作業。平日の夜間や休日を使ってほぼ毎日のように作業が進められています。

ふたりは、「いつか親子3代でできれば」と声をそろえていました。



絵を描く大通さん(左)、陽亮さん(右)。

方で、次の世代にしつかりと引き継ぐ責務を感じている」とコメント。報告を受けた大谷市長は、「世界に誇れる山あげ行事を後世に伝える責任がある。これ

からも精進してほしい」とエールを送りました。

授与された2組の認定書のレブリカは、山あげ会館と市長室に飾られました。

月次・加茂神社

五穀豊穰願い 梵天奉納

月次の加茂神社の例大祭「梵天奉納」が、5月21日(日)に行われました。

五穀豊穰と雷神信仰が有名な加茂神社には、「本社前にある岩穴か

らは、干ばつのときも涸れない湧き水がある。この霊水を借りて雨乞いすると必ず雨が降る」と言い伝えがあるほどで、この梵天奉納も雨乞いの行事の一つです。

奉納には、育成会や地域の商業団体、農業団体が10団体が参加。法被姿の参加者たちは、孟宗竹を根っこごと掘り起こした約10メートルの梵天を担いで、矢崎部品(株)のグラウンドから約1.5キロメートルを練り歩きました。そして、神社の鳥居をくぐったところで梵天を何度も天高く振り上げた後、300メートルあまりの参道を上がり奉納しました。



天高く梵天を振り上げる参加者。

境内では、「巫女舞」や「がらまき」が行われ、多くの地域住民でにぎわいました。



消防と警察が合同水難救助訓練 多発する水難事故に備えて

5月15日(月)、野上の下野大橋付近の那珂川で南那須地区広域行政事務組合消防本部と那須烏山、那珂川両警察署による合同の救助訓練が行われました。訓練には、吉住一男消防長や塚野重徳那須烏山署長、和気安男那珂川署長をはじめ消防隊員や両署員、県消防防災航空隊の57人が参加しました。

この訓練は、梅雨時の河川の増水や台風などの水害による水難事故が発生した場合に、消防と警察が連携して迅速に救助活動を行えるよう毎年この時期に行われているものです。

当日は、梅雨前線の影響で栃木県北部を中心とした集中豪雨により河川水位が急速に上昇し、中州に取り残され

た男性4人を救出することを想定。消防などの緊急要請で出動した消防警察救助艇や、消防防災ヘリコプター「おおり」が要救助者を無事救出しました。また、ロープを投げて要救助者を救出するスローバックによる救出訓練も行われ、正しい知識やロープの扱い方を確認しました。

吉住消防長は、「水は私たちが生活する上でとても大切なものだけれど、危険なこともたくさんあるので、河川の増水や台風には気をつけて欲しい。警察・消防の連携を再確認し、実際に水難事故が発生した場合に迅速に救助活動ができるようにしていきたい」と話していました。



(写真)上:消防防災ヘリコプター「おおり」による救出訓練/下:要救助者を乗せた救助艇。

公民館講演会「まちづくりを楽しむ」

困りごとを解決して まちづくりをしよう。

の考え方や楽しみ方を学びました。廣瀬代表理事は、「まちづくりとは、みんなで困りごとや悩みを解決して、住み心地のよいまちにできていくことなのでは」と話し、祭りのような地域の人たちが、出会い、語り合い、ふれあう場をつくることや、地域で楽しく暮らすために、地域資源を理解してもらおうことの必要性などを提案しました。講演後には、参加者との活発な意見交換会が行われ、有意義な時間となりました。

市では、5月13日(土)、公民館講座の一環として、「まちづくりを楽しむ」をテーマとした講演会を南那須公民館で開催しました。

当日は地域住民約40人が参加。元宇都宮大学の教授で一般社団法人とちぎ市民共同研究会の廣瀬隆人代表理事を講師に、まちづくり

公民館講座では、6月から9月にかけて4回にわたり「まちづくりって何だろう講座」が開催されます。実際に活動している団体や地域おこし協力隊、市まちづくり課による講演が行われますので、ぜひご参加ください。



「まちづくりを楽しむ」をテーマに講演を行った廣瀬代表理事。



名誉市民として様々な分野で活躍された馬場さん。

名誉市民・馬場信雄さん

ご冥福をお祈りいたします

本市の名誉市民である馬場信雄さんが5月12日(金)に永眠されました。享年95歳。馬場さんは旧烏山町で生まれ、現烏山高等学校の前身である県立烏山中学校を卒業後、仙台高等工業学校電気工学科、東北帝国大学工学部電気工学科を修了。烏山高等学校教諭を経て、昭和36年に宇都宮大学教授に就任し、終始一貫技術教育の指導にあたりました。その間、宇都宮大学学芸学部附属中学校長、同大学教育学部長等を歴任し、昭和60年には同大学学長に就任し、同学長を6年務められました。

また、教育学部教育研究科修士課程の設置のほか、生涯学習教育研究センター、雑草科学研究センター、地域共同研究センター等の学内共同教育研究施設設置にも尽

力。さらに、大学院工学研究科博士課程設置にも努力されるなど、数多くの功績を残されました。そのほか栃木県子ども総合科学館展示等研究会委員長、栃木県総合文化センター理事、栃木県文化振興事業団理事、下野新聞社客員論説委員等でも幅広く活躍され、本市のみならず、栃木県の教育、文化、技術の発展に、永年にわたり多大なご貢献を賜りました。

その功績を称え、平成6年には、旧烏山町で「烏山町名誉町民」に推挙し、その称号を贈呈しました。合併後も那須烏山市名誉市民として引き継がれています。

この度のご逝去に対し、ここから哀悼の意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

栃木県実業団剣道大会で優勝・準優勝

ねんりんの部初代王者には黒須さん

4月23日(日)、宇都宮市河内体育館で開かれた「第48回栃木県実業団剣道大会(県実業団剣道連盟主催)」で、田野倉の黒須清さんが今年新設された「ねんりんの部(60歳以上)」で優勝し、初代王者となりました。また、市役所職員で小倉の菊池義夫さんも「六段以上(50歳以上)の部」で準優勝と優秀な成績を収めました。

現在、2人は、宏倫剣道スポーツ少年団の指導者として活躍されています。宏倫剣道は旧南那須町を剣道のまちにしようと創設し、今年で42年を迎える歴史ある団体。

黒須さんは当時から指導者であり、菊池さんはその生徒第一期生だったといえます。

今回、新設されたねんりんの部で優勝を勝ち取った黒須さんは、「初代の優勝者として名を残せたことは嬉しい。一日一日を大切に、これからも一生懸命稽古していきたい」と笑顔を見せていました。また、菊池さんは一昨年の大会で優勝していたこともあり、「優勝を逃してしまったことは悔しい。来年また優勝を目指して試合に臨みたい」と話していました。



黒須さん(左)、菊池さん(右)。

シリーズ 市の文化財 第74回

市指定有形文化財(考古資料)

小志鳥横穴墓群出土品(志鳥)



横穴墓は、古墳時代後期(約1400年前)に発生した墓制で、岩質の斜面や崖に横穴を掘り、玄室(埋葬室)や羨道(通路)などの施設を設け、死者を埋葬しました。

本資料は、29号墓と呼ばれる横穴墓から出土した須恵器(陶質の土器)群です。特徴から、奈良時代(8世紀前半)に制作されたものと考えられ、横穴墓の築造時期(7世紀代)との時期差があります。

これは、横穴墓で長期間にわたり埋葬儀礼や墓前祭祀が継続して行われていたことを示しており、横穴墓の調査事例が少ない栃木県内において、貴重な出土資料となっています。

子どもたちが農業を体験

食育の大切さや農業の大変さや学ぶ

米物語神長協賛会

烏山小5年生に田植えを伝授

5月8日(月)、烏山小学校5年生の児童88人が、田植え体験をしました。

これは、総合的な学習の時間「米物語」の環で、田植えをとおして稲の生育や米づくりの大変さなどを体験しようというもので、毎年、米物語神長協賛会(大野英夫会長)の指導により行われています。

今年も、同会の会員でもある神



①



③



②



④

①②烏山小児童による田植え体験／③④つくし幼稚園の園児がサツマイモの苗植えに挑戦。

長の岡崎新一さんの水田約5アールに児童の手によってコシヒカリの苗が植えられました。児童のほとんどもが初めての田植えというこ

ともあり、足場の悪さに悪戦苦闘しながらも泥だらけになりながら、苗を植える様子が見られました。田植えを初めて体験したという

根本裕隆さん(南一丁目)は、「泥だらけになったけど良い体験ができました。秋の収穫が楽しみ」と話していました。

市青少年クラブと園児

サツマイモの苗植えに挑戦

5月29日(月)、つくし幼稚園の年長、年中組園児63人が市内の若手農業者で構成する市青少年クラブ協議会(山口喬亮代表)の指導でサツマイモの苗植えをしました。同協議会では、子どもたちに農業を身近に感じてもらうと毎年畑に園児を招待しています。

当日は、同協議会が管理する森田の畑でサツマイモの苗約1千株が植えられました。園児は、協議会のメンバーに植え方を教わりながら小さな手で一生懸命に苗植えに挑戦しました。

小学生が市の施設を見学

江川小4年生が水道施設を訪問 水の大切さを学ぶ

江川小学校4年生の児童34人が、5月19日(金)、城東浄水場、烏山水処理センターを訪れ、身近な水の大切さを学びました。

見学地では、各施設の機械設備を見て回ったほか、市職員により水道水ができるまでの過程や、各家庭まで水を送る仕組み、使われた水を集め、再びきれいにして川に戻す仕組みなどが説明され、熱心に耳を傾けメモを取る児童の様子が見られました。

鈴木陽香里さん(三箇)は、「初めて見学して楽しかった。普段水道から飲んでいる水ができるまでや、そのあとの処理について興味がわ



上：烏山水処理センターを見学
下：まち探検で熱心にメモを取る児童たち。

荒川小2年生まち探検で 市役所の仕事を調査

5月25日(木)、荒川小学校2年生の児童8人が、生活科「まち探検」の授業の一環で、市役所南那須庁舎を訪れました。

まち探検では、保育園やスーパーマーケットなど市内で働いている人へのインタビューをして調査をします。児童は、「何の仕事をしているか」や「1日何人お客さんがくるか」など市職員にインタビューをして市役所の仕事を学びました。大橋壮さん(鴻野山)と大谷桃花さん(小河原)は、「どんな仕事をしているのか分かった」と笑顔を見せていました。

那須烏山農村都市交流促進協議会

世界にひとつだけのお酒づくり体験

那須烏山農村都市交流促進協議会（島崎健一会長）による「世界にひとつだけのお酒づくり体験」が5月20日(土)、大木須の「ホタルの里の古民家おおぎす」で開かれ、県内外から家族連れなど約80人が訪れました。

都市交流事業として始まったこの酒づくり体験も今年で7回目。酒造りの工程をすべて手作業で行うのが魅力で、米作りから稲刈り、酒の仕込み、手すき和紙によるラベルづくりなど農村体験をしながら農村と都市の交流を促進し、特産品のPRを図ることを目

的としています。自分だけの酒がつくれるということもあり、参加者の3分の1がリピーターだといえます。

初回となった当日は、酒米「五百万石」の田植えや、陶芸家の向山文也さんを講師とした手びねり陶芸による「マイ猪口づくり」と「絵付けマイ皿づくり」の体験が行われました。昼食には、大木須里山を愛する会により、地元野菜をふんだんに使用した手料理が提供されました。

今後は、9月に稲刈りと和紙のラベル作成、11月に酒の仕込みな



五百万石の苗を植える参加者。

どを行い、12月下旬には、世界にひとつだけの酒が完成する予定です。

伊勢神宮への献穀米

イセヒカリの苗を田植え

志鳥の滝口良一さんの水田で、5月16日(火)、神社本庁の本宗「伊勢神宮」に献穀する米の苗が、県青年神職むすび会(福田有宏会長)と県神社庁教化委員会(小幡正之委員長)のメンバー約25人により植えられました。

この水田に献穀米の苗が植えられるのは、今年で16回目。県内で

は唯一の取り組みです。

伊勢神宮では「イセヒカリ」という品種の米を、神に捧げる米としています。当日は、このイセヒカリの苗を約2アールの水田に植え、五穀豊穣を願いました。

今後は、9月下旬から10月上旬頃に収穫が行われ、その半分が伊勢神宮に献穀されます。

イセヒカリを植えるメンバー。



つつじ✿まんがい



花立峠憩いの森公園。



小木須・宝蔵寺。



4月下旬から5月初旬ゴールデンウィーク頃にかけて市内の「つつじ」が満開となり、市内のつつじスポットでは花見に来た大勢の観光客でにぎわいました。

つつじが咲く烏山線沿線。

チャリティーイベント「桜まつり」 97組が歌や舞踊をステージで披露

那須烏山市歌謡協会(高田悦男会長)によるチャリティーイベント「桜まつり」が、4月23日(日)、大金温泉グランドホテルで開かれました。

このイベントは、今年で25年目となる恒例行事。毎年チャリティーイベントとして年に2回行われ、これまで37回

のイベント募金活動で合計129万743円を地域の福祉に役立てようと寄付しています。

当日は、97組の1000人を超える参加者が歌や舞踊など練習の成果を披露したほか、友情出演として市内で活動する芸能団体「紗喜千代会」やキングレコード所属の増子せい子さんなど地域で活躍する歌手が登場し、会場を盛り上げました。

高田会長は、「社会福祉のために、チャリティーイベントを通して、これからも人と人が支え合うまちにしたい」と話していました。

今回集まった収益金のうち3万円は、社会福祉協会に寄附され、福祉の場で活用されることとなります。



上下：日頃の練習の成果を披露する参加者。



定休日に衣装店を無料開放 地域住民の拠り所に

上境の「まちい衣装店」では、地域住民のコミュニケーションの場として定休日の火曜日に無料で開放しています。

きっかけは、同衣装店の店主・町井和夫さんが、「気軽に集まれる場所がほしい」という地域住民の声を耳にしたことから、なにかできることはないかと計画。今年5月から始まり、1年間継続する予定です。

利用者はクチコミで広がっており、毎回10人ほどが訪



カラオケを楽しむ地域の皆さん。



まちのわだい

◇「広報なすからすやま」では、みなさんからの楽しい話題を募集しています。地域の行事や変わった出来事などをお知らせください。可能な限り取材に伺います。

総合政策課広報統計グループ ☎0287-83-1112

れています。コミュニケーションをとるだけでなく、カラオケができるのも魅力の一つ。利用者からは「週一回でも楽しみがある」と元気が出る」と好評を博しています。

発起人である町井さんは、「地域の人の健康づくりにつながれば」と笑顔を見せていました。

開放日時は、毎週火曜日の午後1時～5時。利用する際は、事前の連絡が必要です。まちい衣装店 ☎0287-84-10641。

横枕どろんリンピック 水田で熱い戦い繰り広げる



横枕青年団(生魚貴宏団長)による「横枕どろリンピック」が、4月30日(日)、横枕公民館付近の水田で開かれ、県内外から約500人が訪れました。

今年で5回目となったどろリンピックは、「田んぼで宝さがし」のほか、メインとなる「自転車一本橋渡り」では小学生の部を新設。また、新たな競技として「だるまさんが転んだ」が登場し、3種目7部門で熱戦が繰り広げられました。

泥にまみれながらも懸命に競技に取り組み参加者に、周りからは大きな声援が届けられ、水田には大勢の人の笑顔であふれていました。また、よしもとク



上…新競技のだるまさんが転んだ／下…盛り上がりを見せた自転車一般橋渡り。



リエイティブ・エージェンシー所属の「GO-皆川」、「ヨッシャ比留間」も参加しイベントを盛り上げました。

宇都宮市から3家族12人で参加したという安納未幸さんは、「いつもは子どもたちに服を汚さないように遊ばせていたけど、今日は泥だらけになるまで楽しんで大人も子どもも満足」と笑顔を見せていました。

大木須の里山で 音楽イベント 世界民族音楽交流祭

4月22日(土)、大木須の「ほたるの里の古民家おおぎす」の敷地内に設置した野外特設ステージで「第2回世界民族音楽交流祭(同実行委員会主催)」が開かれ、市内外から訪れた約1500人の観客が様々な世界の音楽を楽しみました。

当日は、那須烏山ふるさと太鼓保存会の太鼓の演奏と、開催ボランティアとして参加していた烏山高校郷土芸能研究会によるお囃子の演奏でイベントがスタート。その後、市内外で活動する演奏家たち9団体が「フォ



オープニングで行われた太鼓の演奏。



陽気な音楽に合わせて踊るフラダンス。

ルクローレ」、「ブルーグラス」、「ジャズ」といった世界各国の民族音楽を披露。自然いっば

いの里山に美しい音色が響き渡り、観客たちは優雅なひと時を過ごしました。

いきがい山野草教室 山野草100作品を展示

いきがい山野草教室(伊藤金一代表)による山野草展が、5月13日(土)、14日(日)に南那須公民館で開かれました。

山野草とは、野外に自生する観賞価値のある草本のことで、同教室では現在10人のメンバーで、寄せ植え会や勉強会を月2回開き、日々、山野草について学んでいます。昨年からは、作品の発表の場として、山野草展を開き、今回で2回目となりました。

展示会には、メンバーの作品約100点が展示され、多くの地域住民でにぎわいました。



100作品が並ぶ山野草展。

おめでとう

赤ちゃん名 (保護者) 住 所
 佐藤 鈴 (潤一・英美) 中央2丁目
 羽石 華 (極斗・京子) 向 田
 各 由 彩 (芳幸・理恵) 上 境
 中 山 最愛花 (規行・えみ) 小 倉
 平 松 愛 菜 (夢呂・昌子) 小 倉
 平 山 未 来 (孝洋・妙子) 小 嶋
 小 池 結 彩 (将且・好美) 福 岡
 吉 岡 恵 (直裕・美穂) 福 岡
 齋 藤 律 歌 (健太・瞳) 三 箇
 ※ここでは、保護者等の了解が得られた情報のみを掲載しています。

スポーツの結果

●平成29年度第14回全国小学生学年別柔道大会 塩那支部予選会(4月2日(日)、くろいそ運動場武道館)
 「5年生女子重量級」▽準優勝：高野由奈(習励館柔道教室)

●第12回那須烏山市弓道大会(4月29日(土)、烏山弓道場)

「近的生徒の部」▽優勝：市川絢菜(烏山高校) ▽準優勝：秋山優佳(烏山高校)
 ▽第3位：本間真宙(烏山高校)
 「一般女子の部」▽優勝：益子愛理(初音)
 ▽準優勝：川島(すえ・中山)

「一般男子の部」▽優勝：松田猛(鴻野山)
 ▽準優勝：津由起男(南大和久)
 「余興大的乱点」▽優勝：松田猛(鴻野山)
 ▽第3位：本間真宙(烏山高校)

●第36回栃木県空手道少年錬成大会

兼 第17回全日本少女空手道選手権大会県予選会 第6回関東少年少女空手道選手権大会県予選会(5月3日(日)、小山市県南体育館)
 「小学4年生女子組手」▽準優勝：大輪莉央奈(白聖会空手道スポーツ少年団)
 「小学2年生女子組手」▽準優勝：荒井萌維(白聖会空手道スポーツ少年団)
 「小学5年生女子組手」▽準優勝：五十嵐未来(白聖会空手道スポーツ少年団)

●第48回栃木県実業団剣道大会(4月23日(日)、宇都宮市河内体育館)
 「ねんりんの部」▽優勝：黒須清(田野倉)
 「6段以上50歳以上の部」▽準優勝：菊池義夫(小倉)

●第6回那須烏山署長杯・安全協会長杯G・G大会(5月17日(水)、緑地運動公園)
 「団体戦」▽優勝：大木須 ▽準優勝：蛇

●ふるさと応援寄付金
 ・高橋聡様(神奈川県横浜市)、仲谷憲様(大阪府泉佐野市)から1万円が本市に寄附されました。
 ・鈴木実様(神奈川県横浜市)から3万円が本市に寄附されました。
 ・匿名希望者様16人から29万5千円が本市に寄附されました。

●第6回東日本選抜古希軟式野球大会(5月2日(火)～4日(木)、緑地運動公園)
 「グランド古希の部」▽準優勝：烏山スネークス

交通安全母の会 小学1年生に 交通安全人形を寄贈

交通安全母の会(柳田京子会長)では、4月22日(金)、烏山公民館で「交通安全人形」を市教育委員会に寄贈しました。同会では、25年以上前から市内の新1年生の交通安全を願って、交通安全人形を手作りしています。中には、ランドセルのポケットにお守りとして6年間大切にしている児童もいるようです。今年市教育委員会をとおして203人の新1年生に向けて配布されました。



人形を手渡す柳田会長(右)。

編集後記



○今月号の特集では、「考えよう！私たちの公共施設」をテーマにこれからの公共施設のあり方について紹介しています。たくさんあったら便利でいいな〜と思う反面、いつかはやってくる更新や修繕時期を考えると、ただ増やすだけではダメなんですね。私も那須烏山市の公共施設の現状や課題を知って、改めて考えなければいけない問題だな〜と思います。広報担当者も日々勉強なのです(笑)
 ○そして、取材先でもう一つ勉強になったエピソードが…子どもたちの農業体験の取材に行った時のこと。いつものように写真を撮っている私に、年長組のある女の子が「言、まったく、写真はっかり撮って」と…。
 ○その日は気温が30度近く上がった夏日。子どもたちは汗を流し農業の大変さを味わっている中、写真ばかり撮っていた私は彼女にとってサボっているように見えたのだろう(??)でも本業は…と、言いたいところですが、体験取材？も大切だな〜と考えさせられたのでした。本業に支障をきたさない程度、体を張って頑張ります！



Information

新着図書

南那須図書館 ☎0287-88-2748 Fax88-0204
 烏山図書館 ☎0287-82-3062 Fax82-7566

★図書館HPから新着図書が検索できます★
<http://www.lib-nasukarasuyama.jp/>

2017.5.1現在
 ()対前月比

人口 26,364(-51)

男 13,029 女 13,335
 出生 9 死亡 27
 転入 57 転出 90

世帯数 9,408



市の人口

※平成27年国勢調査を基に集計した統計人口です。

★一般図書★

『尖閣諸島と日中外交』 塩田 純
 『0歳からのスキンケア』 友利 新
 『ゴキブリ退治に殺虫剤は使うな!』 大久保 柁幸
 『絶対おいしいキャンプごはん』 羽根田 治
 『四季の宿根草図鑑』 荻原 範雄
 『生死を分ける、山の遭難回避術』 津村 記久子
 『まぬけなこよみ』 津村 記久子
 『どんぶらこ』 いたう せいこう
 『ジュリエットのいない夜』 鴻上 尚史
 『団塊の後』 堺屋 太一
 『万次郎茶屋』 中島 たい子
 『ひとめぼれ』 畠中 恵
 『あとは野となれ大和撫子』 宮内 悠介

★児童図書★

『うわさの怪談怨』 魔夜 妖一
 『円周率の謎を追う』 鳴海 風
 『友だち関係』 藤 美沖
 『転んでも、大丈夫』 白井 二美男
 『はじめての水泳』 阿部 高明
 『チキン!』 いたう みく
 『なにがあってもずっといっしょ』 ぐさの たき
 『ぼくたちのリアル』 戸森 しるこ
 『フラダン』 古内 一絵
 『明日のひこうき雲』 八束 澄子
 『にいちゃんのみみだスイッチ』 いたう みく
 『ばあばは、だいじょうぶ』 楠 章子
 『ゆうかんなねこ?くろすけ』 エドヴィアー
 『あかちゃんごおしゃべりずかん』 かしわら あきお

作品集募集

毎月10日までに、総合政策課広報統計グループ
 (〒321-0692 那須烏山市中央1丁目
 1番1号)あて、郵送で作品をご応募ください。

父となり祖父となりたる今も恋う母の面影今
 日は命日
 矢口 玄鳥(大金)

短歌

満開の桜の下でテニスする古希の仲間が類染
 め若やぐ
 古内 晴代(金井)
 戦時中烏女高に通いし渡し船の船場を下野橋
 より見下ろす
 高野 久子(大桶)
 ご先祖様亡き夫の守りを受けて今があると
 朝に晩に手を合わせおり
 吉田喜枝子(興野)

身を清め心を洗う滝の音
 五月女佳子(谷浅見)
 鉢植えか庭に植えるか小競り合い
 小口 格男(興野)
 福袋長蛇の列はみな笑顔
 須田 孝子(城東)

川柳

花散らす無情の雨に恨み歌
 石川由美子(興野)
 福澤 悦子 選

山間に意気揚々と鯉のぼり
 齋藤 誠一(大沢)
 学ランの山路のペダル風薫る
 高徳 美井(大金)
 大なだれ若き死悼み黙禱す
 塩坂美枝子(南大和久)
 蒼天を突く若竹のころろざし
 伊藤 博志(田野倉)

俳句

齋藤 穂 選

文芸コーナー

まかせて安心!!

三井住友海上代理店

(有)しおや保険事務所

- ◇損害保険: GKくるま・自賠責・GKすまい・地震
- ◇生命保険: 新総合収入保障・新医療保険・三大疾病
- ◆お問合せ: 〒321-0526 那須烏山市田野倉383

☎0287-88-9870

FAX:0287-88-0234



広報なすからすやま平成28年
 11月号の表紙写真が、県の審査を
 経て平成29年全国広報コンクール
 へ出場しました。残念ながら結果
 は残念なものでしたが、これから
 も皆さんに親しんでもらえるよう
 な広報紙づくりに取り組んでい
 きます。

広報コンクール全国大会出場

トシリーズ 鳥山高校ってこんなところ！部活動を知ろう編⑬

郷土芸能研究会



広報「なすからすやま」では、鳥山高校の部活動等で頑張る生徒を紹介します！

郷土芸能研究会は、ユネスコ無形文化遺産に登録になった「鳥山の山あげ行事」で演奏されるお囃子(はやし)の演奏者の育成を目指すため、平成25年に発足しました。

現在、会員は14人。毎週金曜日の放課後に下境小宅流囃子方保存会の皆さんに「太鼓」「笛」「鐘」の指導を受けながら演奏の腕を磨いています。高校の文化祭や地域のイベントのほか、山あげや他地域の祭りでも演奏を任せられ活躍している生徒もいます。

また、6月11日(日)の鳥山高校吹奏楽部「第8回定期演奏会」にも出演します。



3年(金井1丁目) 会長 樋口紗莉奈さん

お囃子をとおして地域の人とふれあい、演奏の感想を生で聞けることが魅力。山あげを私たちのお囃子でもっと盛り上げ、多くの人に祭りやそれに関する伝統芸能の素晴らしさを伝えていきたいです。

那須鳥山ジオパーク構想だより②

ゲンジボタル飛び交う 横枕・大木須の里山里川

那珂川の東、横枕や大木須には緑あふれる谷あいの里山里川が広がっています。小木須川横枕や大木須川(大木須)の川沿いには荒川江川沿いのなだらかな丘陵地とは異なる風情豊かな自然が広がり、ゲンジボタルが生息しています。毎年ホテル祭りが行われるなど、地域特有の豊かな自然を生かした取り組みが行われています。



「見どころ紹介」



那珂川東地域には、沢の出口に小規模な扇状地があります。そこでは、水はけが良いという扇状地の特性を生かして、ソバの栽培が盛んに行われています。美味しいそばを味わうことはもちろん、地形地質を生かして発展してきた営みの歴史を感じることが出来ます。

さっぱりしたものが欲しくなるこれからの季節。美味しいそばと綺麗なホテルで、涼をとりに足を延ばしてみたいかがでしょうか。